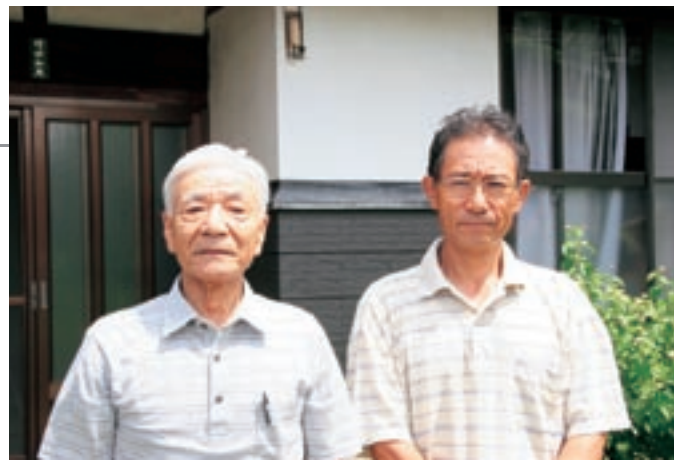


自分から子へ 子から孫へと語り継ぐ

増田巡査は独身で子どもがいまいませんでしたが、弟の玄平さんがおり、佐賀県警察学校に入る前に増田家の家督を譲っています。

玄平さんの孫の義親さん（写真左）と、ひ孫の和典さん（写真右）は、泗水町に在住されています。増田巡査を先祖に持つことについて聞きました。



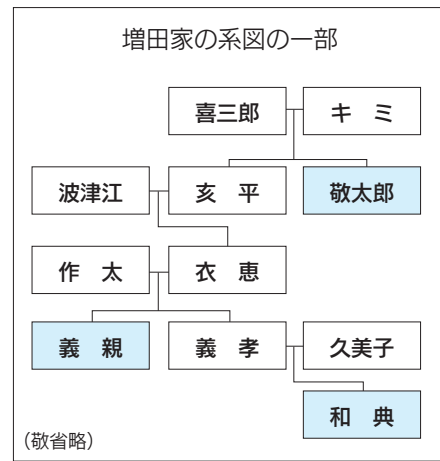
増田奉賛会の池田会長。増田巡査の功績が地区住民に語り継がれています

玄界灘に面した高串地区は、漁業と農業が盛んな所で、約380世帯、1,200人が暮らしています。この地区では、増田巡査の偉業をたたえ、7月26日に一番近い日曜日に、増田神社夏祭りが行われています。その祭りを主催する「増田奉賛会」の池田信市会長（高串区長）は、「私たち（区民）は増田神社とは言いません。親しみを込めて『増田さん』と呼んでいます。増田さんがいなかったら、おそらく今の自分たちはいなかったと思います」と話されました。池田会長は、地元の子どもたちや、毎年夏祭りの時に参拝に来る佐賀県警察学校の学生などに、増田巡査の話をしていきます。

増田巡査の偉業を語り継ぐ

増田神社境内であった祭事には、増田家、佐賀県、佐賀県警察本部、同警察学校生徒、唐津市、菊池市などの関係者約300人が参列しました。式典の中で山崎篤男佐賀県警本部長は「増田敬太郎さんの奉仕の精神は、警察精神の原点とも言えます。増田さんを尊敬し、県民の安心・安全な暮らしを守ることに努めていきたい」とあいさつ。増田巡査の精神が、今も受け継がれていました。

増田神社境内であった祭事。港付近では佐賀県警音楽隊のマーチングパレードも行われます



(敬省略)

敬太郎さんを先祖に持つことは、増田家の誇りだと思っています。物心つく頃から「先祖には神様がおられるのだから・・・」と厳しく育てられていた。そのことを胸に「悪いことは何ひとつしない」との気持ちで、これまで生きてきました。これからは、敬太郎さんの偉業を、お墓を、そしてこの増田家全体を、私から子へ、子から孫へと受け継いでいこうと思っています。

子どもの頃から増田神社を訪れていますが、いつもきれいにしており、夏祭りも盛大に行われています。敬太郎さんの姪にあたる衣恵の言葉に「神として祀られた叔父が神様か、神と祀っていた高串の村の人々の誠心が神様か私には分かりません。ただただ、ありがたさでいっぱいです」とあります。私たちも同じ思いで、「地域の皆さんのお陰」という気持ちでいっぱいです。生家の前にも記念碑が建立してあり、お墓も近くにありますが、皆さんに守られているという気持ちも忘れません。

地域のために

「増田巡査のことは、学校で習う前から家庭で話題になって自然と学んできました」と祭りに参加した子どもたち。地区の皆さんが、増田巡査を救いの神だと思い、コレラに人柱となって立ち向かった姿を尊敬していました。これからは、親から子へ、子から孫へとこの祭りを通して、語り継がれていくことでしょう。

今の高串地区を守っている、佐賀県警高串駐在所に勤務する原口 剛巡査長にお話を伺いました。

「昨年の9月に赴任しました。6年前に、私もこの夏祭りに参加した一人です。この駐在所では歴代の人みんなが一生懸命努めてきたので、当然自分もしっかりやってくれるだろうという、住民の皆さんの期待を感じています。

将来は、増田巡査のように大きなことはできないと思いますが、『自分に任せておけば大丈夫』くらいの専門的な知識をつけ、住民の皆さんに好かれる警察官になりたいです」



佐賀県警高串駐在所 原口 剛巡査長

地域でも語り継ぐ

泗水町で活動する、しずいっ子童話会（前田和子会長）のメンバーが、増田巡査の偉業を後世へ伝えていこうと、昨年紙芝居「伝えたいふるさとのお話『神様になった警察官』増田敬太郎物語」を作成し、各種イベントなどで披露しています。

また、唐津市民劇実行委員会（千喜田俊朗実行委員長）による「増田敬太郎物語・警神」の市民劇が、9月23日（祝）と9月27日（土）に唐津市で行われる予定です。

2つの地域で、増田巡査の偉業を語り継ぐ新しい動きが始まっています。



泗水図書館で紙芝居を披露する、しずいっ子童話会のメンバー

参考文献
巡査大明神全傳（内田守著）
増田敬太郎物語（肥前町製作）



泗水町（泗水田中区）にある、増田巡査が生まれ育った生家と入口横にある記念碑。今でも玄平さんのひ孫にあたる和典さん一家が住み、増田家を守っています。玄関の上がり段は、当時のままの姿で、耳を澄ますと「ただいま」と元気に帰ってくる増田巡査の足音が聞こえてきそうです



佐賀県警察の巡視艇を先頭に、十数隻の漁船が増田巡査を火葬した小松島まで海上パレードし、献花などを行います